

2022.4.15
No.61

UNIRITA ユーザ会ホームページ
<https://www.uniritauser.jp>

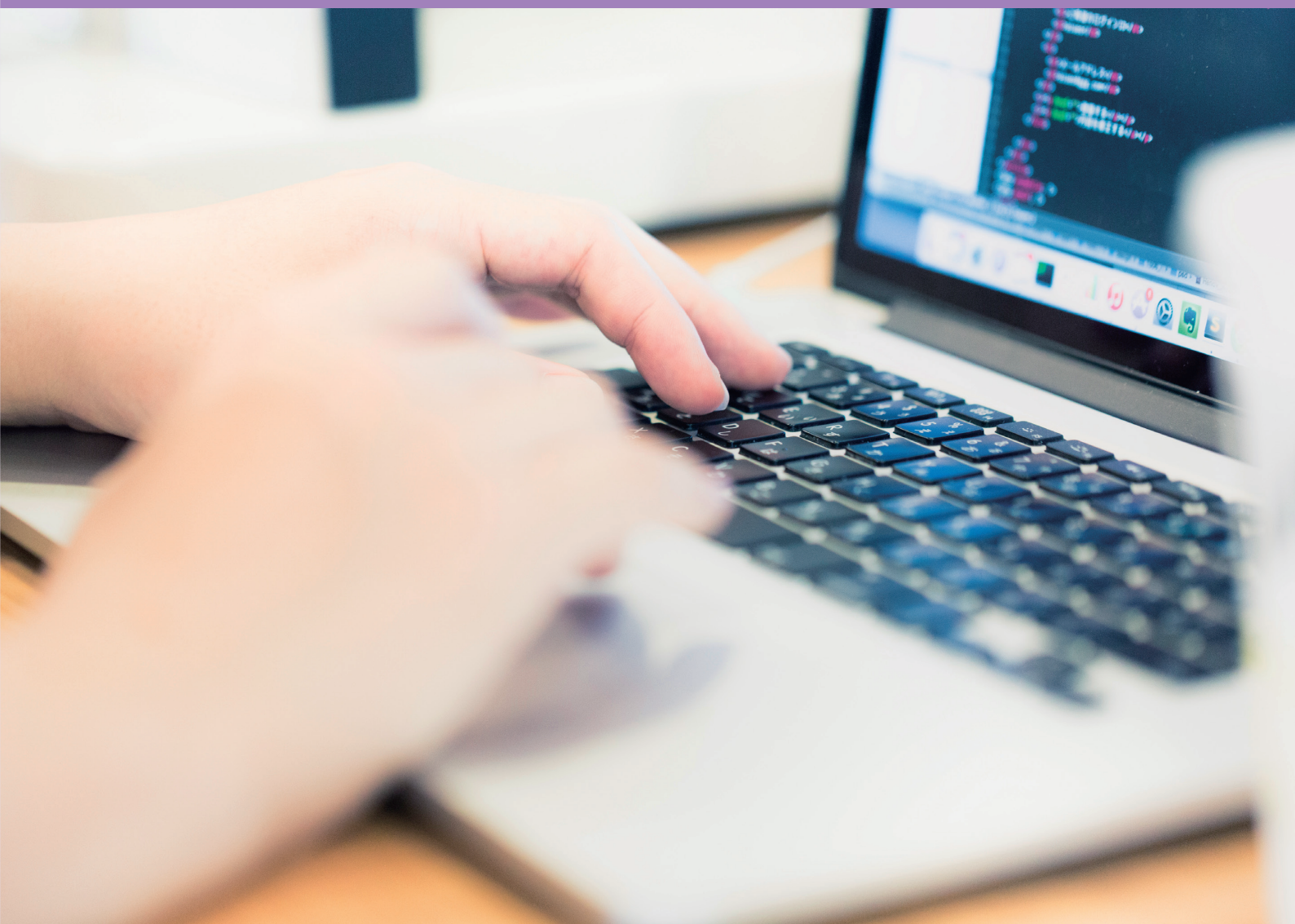


UNIRITA Users' Group

ユニリタ ユーザ会 ニュース

CONTENTS

- 02 第38回UNIRITAユーザシンポジウム開催報告
- 04 第38回UNIRITAユーザシンポジウム表彰結果報告
- 06 研究グループメンバーインタビュー
- 08 2022年度 研究テーマ及び研究概要一覧
- 10 UNIRITAユーザ会の主な活動内容/年間スケジュール
- 11 役員・代表の紹介
- 12 2022年度研究メンバー募集について





第38回 UNIRITA ユーザシンポジウム開催報告

2022年3月4日
オンライン開催

第38回 UNIRITA ユーザシンポジウムが開催されました。今回はギリギリまで福岡での開催を試みましたが、オンラインでの開催となりました。開催まで1カ月間を切ったところでの申し込み開始となりましたが、全国から148社631名の方にご参加をいただきました。

UNIRITA ユーザ会定時総会はユーザシンポジウムに合わせてあらかじめWeb 総会として開かれ、各会員企業様の登録代表者の皆さまにご投票をお願いしました。皆さまのご協力のおかげで無事議案が承認されましたこと、この場をお借りしてお礼申し上げます。

全体会では、後藤会長による開会のご挨拶およびWeb 総会の結果報告、シンポジウムの見所のご案内が行われました。全体会の後は、22グループの研究発表及び事例発表が2セッション行われました。また、車椅子バスケットボール男子日本代表ヘッドコーチの京谷和幸氏による特別講

演も行われました。どのセッションも視聴者数が多く、ご参加いただいた皆さまの関心の高さが伺えました。

研究発表は、聴講者の投票によって評点が決まることもあり、発表者は緊張の面持ちで今年度の研究活動の集大成を発表しました。

表彰式では、優秀な評価を得た研究発表および事例発表の表彰が華々しく行われました。最優秀活動賞を受賞した研究グループの代表者とオンラインで繋ぎ、喜びの声を直接聞くこともできました。

事例発表はスガキコシステムズ株式会社の「Waha! 新オプション導入で、柔軟かつユーザに優しい情報提供の実現!」および株式会社山櫻様の「レガシーシステムだって『クラウド化』できる～ユニリタクラウドサービスを活用した基幹サーバ移行と今後の展開について～」が共に優秀事例発表賞を受賞されました。研究発表は、最優秀活動賞1グループ、優秀活動賞3グ

ループ、審査員特別賞2グループの6グループが受賞しました。

今回で2回目のオンラインシンポジウムとなりましたが、非常に多くの方にご参加いただき、盛況のうちに終了することができました。これもひとえにご参加いただいた多くのお客様と、多くのお力添えをいただいた会員企業様のおかげです。誠にありがとうございました。

今回は発表会場も用意して開催しましたが、発表会場からの発表は半数で、半数は会社や自宅からの発表となりました。場所を問わず、発表できるというオンラインならではの良さも感じられました。

第39回 UNIRITA ユーザシンポジウムは2023年3月に開催予定です。新しい形でのシンポジウムが開催できるよう検討して参ります。次回も多くの皆さまの積極的なご参加を心よりお待ちしております。

第39回 UNIRITA ユーザシンポジウムは2023年3月に開催予定です。
次回も多くの皆さまの積極的なご参加を心よりお待ちしております。

UNIRITA ユーザシンポジウム特別講演

裏側を見てみましょう!

ユーザシンポジウムの12:00~13:00は特別講演が配信されました。
2021年8月~9月に開催された東京2020パラリンピックで見事、
銀メダルを獲得された車椅子バスケットボール男子日本代表ヘッドコーチである
京谷和幸氏を講師にお迎えし、ご講演いただきました。

まん延防止等重点措置が発令されている中でのユーザシンポジウム開催であったため、不測の事態に備え、京谷氏の講演は事前収録とさせていただきます。

聴講者が目の前に居るときは聴講者の反応を見て、話を進められているとのこと。今回はスタッフ以外に聴講者がいなく、カメラに向かって話していただくスタイルだったので、話をされる前はやりづらいとのことでしたが、いざ講演が始まると、そんなこともなく熱くお話しいただきました。
スタッフとして横で聴講していましたが、話に引き込まれ、あっという間の1時間でした。

今回は背景と講演資料を合成するため、グリーンバックを背に、複数の照明機材を前に撮影を行いました。



ご講演ではサッカー時代のお話から、事故後、現実を受け止め、車椅子バスケット選手になるまでのお話、ヘッドコーチとして実践されている「京谷式リーダーシップ論」について、熱く語っていただきました。

撮影前に、シンポジウムのキーワードチャレンジの景品である京谷和幸氏の本にサインをしていただきました!



Speaker 京谷 和幸 Kazuyuki Kyoya

昭和46年(1971年)北海道室蘭市生まれ。地元の強豪・室蘭大谷高校へ進学し、1年生から背番号10番を背負い、全国高校選手権に3年連続出場を果たす。卒業後はジェフ市原と契約し、プロサッカー選手になるという夢を叶えた矢先の1993年Jリーグ開幕半年後に交通事故で脊髄を損傷、車いす生活となる。その後出会った車いすバスケットボールで新たな夢を見出し、2000年のシドニーパラリンピックから日本代表入りを果たすと、続くアテネ・北京・ロンドンと4大会連続でパラリンピックに出場。08年の北京大会では日本選手団団長を務めた。

競技者を引退した後は指導者としての道を歩み始め、車いすバスケットボール日本代表アシスタントコーチに就任。2016年リオデジャネイロ、自身5大会目のパラリンピックは指導者としての出場となった。2020年からはヘッドコーチに就任し、東京パラリンピックで車いすバスケット史上初となる銀メダル獲得。指導者として日本の強さを世界に示した。また、U23日本代表のヘッドコーチも兼任し、若手の育成にも力を注ぐ。

第38回UNIRITAユーザシンポジウム 表彰結果報告

研究グループ活動賞

西日本合同研究部会

最優秀活動賞

GW03:リモートワークによる生産性向上

その会議、リモートワークでいいんじゃない? ～天の声がサポートします!～



受賞コメント 最優秀活動賞が決定した時は大変嬉しく、しばらく興奮が収まりませんでした。大きい舞台で発表ができ、その上で最優秀活動賞を受賞できたことは貴重な経験をさせていただいたと思います。

良かった点 会議以外にも情報共有できる場があったため、なかなか会議に参加できないメンバも意見を出し合うことができました。最優秀活動賞を取れたことももちろんですが、何よりもGW03のメンバで楽しくユーザ会を進められたことが一番良かった点だと思います。

- 本部 千恵 [小浦石油株式会社]
- 山内 正輝 [株式会社KYOSO]
- 中西 正人 [株式会社K-BIT]
- 大野 公平 [コベルコシステム株式会社]
- 相原 和紀 [株式会社CACオルビス]
- 西岡 鉄平 [TDIシステムサービス株式会社]
- 藤田 朋弥 [東洋アルミニウム株式会社]
- 岩松 一憲 [ニッセイ情報テクノロジー株式会社]
- 吉崎 隆子 [ニッセイ情報テクノロジー株式会社]
- 橋本 学 [株式会社ユニリタプラス]
- 北川 博之 [株式会社ユニリタプラス]

優秀活動賞

東日本情報活用研究部会

IE04:画像・映像認識技術のビジネス活用

超えるリアル

～画像認識で進化するオンライン会議～



- 藤井 佳音 [アイシーエクスプレス株式会社]
- 大塚 巳 [リコーITソリューションズ株式会社]
- 石川 裕人 [ANAシステムズ株式会社]
- 岩田 千裕 [株式会社リンクレア]
- 林 生成 [MS&ADシステムズ株式会社]
- 村上 崇 [株式会社アスペックス]
- 丸山 佳範 [MS&ADシステムズ株式会社]
- 高田 ヨシユア [株式会社ユニリタ]
- 志村 大輝 [株式会社K-BIT]

受賞コメント 顔認識技術を用いてオンライン会議を手助けする、という今の業務活動に必要なテーマを採択できたのは、このメンバならではなかったと思います。表情が見えないというオンライン会議の問題点を、まさにオンライン会議を介して議論を行い、有意義な研究活動を行うことができました。

良かった点 実体験に基づいた身近な課題をテーマにおいたため、最後まで意欲をもって研究がすすめられた。また各チームメンバの得意分野を生かし、成果物をまとめ上げることができた。

優秀活動賞

東日本システム運用研究部会

OE03:問合せ記録のデータマイニングから顧客満足度向上

テキストマイニングでデータの山を採掘

～問い合わせ記録が顧客満足度向上の切り札に～

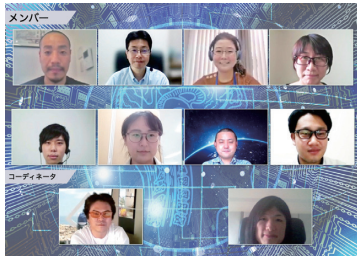


- 西澤 碧生 [出光興産株式会社]
- 青木 智子 [ニッセイ情報テクノロジー株式会社]
- 柳谷 颯 [出光興産株式会社]
- 漆戸 亮文 [株式会社YE DIGITAL]
- 尾崎 雄一 [株式会社エムアンドシーシステム]
- 佐野 良 [株式会社ユニリタ]
- 岡本 仁詩 [TDIプロダクトソリューション株式会社]
- 関口 聖成 [株式会社ユニリタ]
- 矢内 和樹 [株式会社データ総研]

受賞コメント 数ある研究活動の中から、優秀活動賞を受賞することができ、とても光栄です。「やってみたい!」と申しましたというコメントもいただき、今まで研究をやってきた甲斐があった、と思いました。

良かった点 日々の問合せ業務に対する課題や、それを改善する方法について考える良い機会となった。

IW02: AIと人材育成 AIを用いた社員の強み弱み分析 ～AIで人財が育つのか!?～

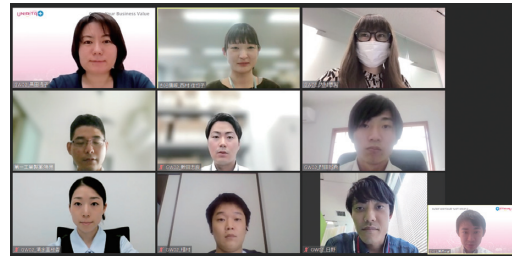


田路 暢宏 [アイシーエクスプレス株式会社] 木下 雅子 [ニッセイ情報テクノロジー株式会社]
永田 大智 [京セラ株式会社] 黄 善玉 [ユニチカ株式会社]
藤井 洸樹 [株式会社K-BIT] 矢橋 美智子 [ユニチカ株式会社]
辺見 泰斗 [コベルシステム株式会社] 川原 祥嗣 [株式会社ユニリタプラス]
阿江 邦章 [ニッセイ情報テクノロジー株式会社] 梅村 材 [株式会社ユニリタプラス]

受賞コメント 知識・技術スキルや、メンバー間での認識共有化など、苦勞することが多かったと思いますが、最後は優秀活動賞という素晴らしい賞を受賞することができ、苦勞を喜びに変えることが出来ました。シンポジウムが福岡で開催されなかったことは少し心残りですが、素晴らしい賞を受賞できたことに感謝します。

良かった点 他の会社の方々と研究活動を進めていく中で、雑談であったり情報交換を行ったりしていたので、そのようなことができる方との繋がりを築けたのが良かったです。

GW02: IT部門におけるDX推進 DX時代のリアル二刀流 ～IT部門は投打両立できるのか?～



西村 佳也子 [さくら情報システム株式会社] 大村 恵実 [ニッセイ情報テクノロジー株式会社]
植村 悠理 [情報技術開発株式会社] 日野 謙一郎 [ニッセイ情報テクノロジー株式会社]
清水 里枝香 [生和コーポレーション株式会社] 門田 誠希 [ユニチカ株式会社]
勝見 真悟 [第一工業製薬株式会社] 高橋 志音 [株式会社ユニリタプラス]
數田 忠良 [東洋カーマックス株式会社] 黒田 浩子 [株式会社ユニリタプラス]

受賞コメント 名誉ある審査員特別賞を頂き、光栄に存じます。DXとIT部門との関わり方に関する知見を深めることができ、“one for all, all for one”をスローガンに研究できたことは望外の喜びです。本研究で得た知見や探求経験を業務でも活用していきたいと考えております。

良かった点 検証方法等の大枠が決まった段階で研究の骨子を固め、共通認識を持った状態で検証ができた点です。チームを2グループに分け、多段階検証もスムーズに進めることができたと考えております。

IE09: 災害に強いビジネスモデルを創るIT技術とは 災害に強いNW環境づくりに向けて ～貴社のNWをチェックしてみませんか?～



森田 暁広 [アース製薬株式会社] 細川 祐幾 [CTCシステムマネジメント株式会社]
東梅 大輔 [株式会社エムアンドシーシステム] 手原 信太郎 [ニッセイ情報テクノロジー株式会社]
陶 吉宏 [MS&ADシステムズ株式会社] 梅谷 守利 [株式会社ユニリタ]
イ ボムソク [小岩井乳業株式会社] 加藤 美穂 [株式会社ビーティス]

受賞コメント この度は審査員特別賞を頂き、ありがとうございます。我々は「災害」発生時の脅威を振り返ることで改めて自分達のこととして考え、それが聞いて頂いた皆様に価値のある情報として提供できればと思い一年間取り組んできました。

良かった点 一年間の活動を支えていただいたコーディネータや事務局の方、快く送り出してくれた職場の方等様々な皆様のおかげだと思い、感謝しております。ありがとうございました。

スガキシステムズ株式会社
佐橋 修 様
製品名:
Waha! Transformer

Waha!
新オプション導入で、
柔軟かつユーザに優しい
情報提供の実現!



株式会社山櫻
倉持 建作 様

製品名:
ユニリタクラウドサービス
レガシーシステムだって
『クラウド化』できる
～ユニリタクラウドサービスを
活用した基幹サーバ移行と
今後の展開について～





研究グループメンバーインタビュー

第38回 UNIRITA ユーザーシンポジウムにて、「最優秀活動賞」を受賞されたGW03「リモートワークによる生産性向上」研究グループのお二人にお話を伺いました。

株式会社 K-BIT 中西正人さんと、TDIシステムサービス株式会社 西岡鉄平さんに、今年度の研究活動について当時を思い出しながら振り返っていただきました。



中西 正人 さん
株式会社 K-BIT



西岡 鉄平 さん
TDIシステムサービス株式会社

第38回 UNIRITA ユーザーシンポジウム
最優秀活動賞受賞 西日本合同研究部会
GW03「リモートワークによる生産性向上」

4月

メンバ募集

研究テーマを選んだときの理由やモチベーションなどをお聞かせください。

中西 普段、私は会社の方で人事労務を担当しています。平日頃検討していますリモートワーク、在宅勤務の生産性向上が課題でしたので、これは社内の仕事にも役立つのではと思って即決しました。あとは社外の方との交流もあるとのこと、ワクワクドキドキで楽しみにしていました。

西岡 現場でもリモート環境で1年経っている状況だったので、その中で生産性向上は関係のある内容だったので、自分の会社にも貢献できるのかなというところが理由となります。

5月

春の全体会

初会合となる「春の全体会」に臨む際はどのような心境でしたか？

中西 通常の業務が当然ありましたので、うまく研究が進めれるかという不安はありました。関西の研究グループということで、関西らしい面白い研究とか成果を、全国の他のグループに見せたいという野望はそのとき湧いてましたね。

西岡 初めての参加ということもありましたし、業務との兼ね合いもあって、どれぐらい参加できるのかということもありましたが、せっかく研究するのだから、何か結果を残したいとは思っていました。

8月

集中討議



集中討議の成果について教えてください。

中西 8月の時期は研究テーマもぼやけてました。ですが、集中討議という場で第三者の方からご意見を頂ける機会もあって、そこで、なるほどなという刺激もありましたので、急速にイメージが湧いてくるような、こうやったほうが確かにいいね、というように進んだと思います。

10月

グループリーダ会議

グループリーダ会議時点でのグループの状況についてお聞かせください。

中西 他のグループの内容も見えてきて、自分のグループはもっと個性や違いを出したいと思っていました。グループリーダ会議は他のグループの発表やフィードバックも聞けて刺激的でした。10月のタイミングでよかったと思います。

12月

冬の全体会

冬の全体会の感想についてお聞かせください。

西岡 冬の全体会時点では、ツールの検証をしっかりやっているグループが多かったので、遅れているという印象はありましたが、全体の結果を見ても、他のグループも似たようなところがあるのかなとは思いました。

2月

発表練習会



発表練習会についての感想をお聞かせください。

中西 発表練習会では、代表からの厳しい意見を全部書き留めて修正をしました。また、発表練習会の後は、発表練習をすればするほど、発表資料と発表者がうまくシンクロしている状態となり、オリジナリティの面がうまく引き出されている感じもあって、良い発表に仕上げてもらえたと思います。

シンポジウム当日の心境についてお聞かせください。

中西



福岡の現地開催を楽しみにしていたのですが、活動もすべてオンラインで実施してきましたし、我々の研究グループは、逆にオンラインでの開催の方が、ツール良さや内容のアピールができるとしていました。当日は結果はどうあれ、このグループで活動してきた内容はとても充実していましたし、緊張して待つというよりは、清々しさの方が強かったです。また、当初から言っていた大阪らしさが出せたと思っていたので、それがどのように全国の方に通じているのかというところで、わくわくしていました。

西岡



ツールは一人で作ってましたし、コンセプトも適当だったので、ひとりよがりにならないかと心配でしたが、世間一般に伝わるのか不安でしたが、シンポジウムは楽しんでいました。他のグループの発表は、全体的に硬かったなという印象でした。

受賞時の感想をお聞かせください。

中西



優秀賞まで呼ばれなかったので、ダメかなと正直思っていました。最優秀賞でGW03と呼ばれたときは、うれしすぎて男泣きしました。その後、発表者の大野さんの顔が出たときも泣きましたので、2回泣きました。大野さんのときは半笑いですけど(笑)

西岡



最優秀賞を取るという意識よりは、この研究を楽しみたいというのと、何か残せればという意識はありました。表彰の時に、最後まで呼ばれなかったときは、どっちなんだろうなと思いましたが、大野さんの顔が出たときは感動しました。

最優秀賞受賞の決め手は何だと思えますか？

中西



最優秀の決め手は、最初から最後までのお会合を通して、「笑い」が絶えなかったことだと思います。絶対的に自信があったのが、全国の他のどのグループと比べても、心の底から笑う時間については、我々のグループが1番だったと思っています。(笑)

1年間の研究活動についての感想をお聞かせください。

中西



1年間はあっという間でした。発表資料の提出前は、会社の人よりも研究メンバーの方が顔を合わせていたので、研究グループの会合の方がほっこりする感じで、とにかく楽しい時間でした。また、最優秀賞の受賞後に、ある研究メンバーから「この会合の時間が癒しかった」と言われたことがうれしかったです。笑いを言い合える関係性が「癒し」につながることに気づけたことが収穫でした。

西岡



ひとことと言うと楽しかったです。リモートの環境でここまで楽しくできるということは思っていなかったのですが、とても有意義でした。また、何らかの目標に向かって一丸となることは、リモートであってもできると思いました。同じことに関して集中してやれば、1回につき2時間という会議体であっても、1年間を通してこういうことができるんだとわかったので、会社でも啓蒙していければと思います。

1年間の研究活動を行う上で、工夫したことを教えてください。

中西



すべての会合がオンラインだったこともあり、Zoomの録画ができたことで、不参加の方にも情報共有ができたのと、日々の情報交換をSlackで行っていました。あと、毎回の会合は14時～16時の2時間と決めていましたが、通常の会合の後に「アディショナルタイム」という時間を1時間とって、17時まで終わるようにしていました。その「アディショナルタイム」の中にいると面白い意見とか、これまでの流れを変えてしまうような発言が出て、それ面白いねというので盛り上がっていました。

来年度の研究メンバーの方へ

この研究会を通じて、普段ともに仕事をするのが無い方々との人脈形成や、いろんな考え方を知れる機会ではありますので、参加することで普段の生活に役立つことは大きいと思います。我々がそうだったように、自ら楽しもうという気持ちでやることで結果を残すことは絶対無駄にはならないと思いますので、参加してほしいと思います。我々の研究グループをとりまとめしてくれた「天の声」ですが、あのおじさんのキャラクターが最後まで引っ張ってくれました。我々のシンボルになっていたので、あの画像はこれからも大事にしていきたいです。(笑)ただ、私が「天の声」を使うと別の人格が立ち上がってしまいますが(笑)



中西

参加することで、自分の会社という小さいコミュニティから広がっていくので、いい経験ができると思いますし、コミュニケーションの取り方や、他の会社の仕事の仕方を学ぶことができます。会社から言われてやることも多いと思いますが、とにかく楽しくやることで大きな結果につながる



西岡

ことがあるので、楽しんで参加してほしいと思います。

研究テーマおよび研究概要一覧

UNIRITA ユーザ会では今年度も活発に研究部会活動を行っていただくべく、研究グループメンバーの募集を行います。今年度も地域ごとに旬なテーマをご用意して会員企業様のご参加をお待ちしております。

東日本地区

IE01 情報活用 

これからのIT

参加者は情報システム部やITベンダーのマネジメント層です。ITの課題に対する最新技術による解決策や導入実績を提供し合い、会社を離れた情報交換の場を提供します。また、ユーザ会に参加する研究部会メンバーへの支援を行います。

IE02 情報活用 

IT活用によるSDGsの達成

SDGsの17の目標を達成するためには何が必要なのか？IT活用により何ができて、自分たちのビジネスと関わっているのか？ITはどの目標に対してどのような成果を挙げられるのか？IT活用によるSDGsの達成について研究します。

IE03 情報活用 

AIOpsによる業務改革

AIの発展によって活用の幅が広がり、AIによるIT運用「AIOps」が注目されています。AIOpsを始めるために必要なことや考慮すべきことは何か、なぜAIOpsが必要なのかを検討し、AIを使用して検証を行います。

IE04 情報活用 

ローコード開発の可能性

最小限のソースコードでソフトウェア開発を行うローコード開発が注目されています。ローコード開発について学び、他の開発手法と比較して優位性を考察します。また、実際に開発を行うことで、ローコード開発の可能性について研究します。

IE05 情報活用 

PMBOK 第7版によるプロジェクト管理

PMBOKが4年ぶりに改訂されました。第7版を使うとプロジェクト管理やプロジェクトの進め方がどう改善されるのか？プロジェクト管理はビジネスにどのように影響を与えるのか？第6版によるプロジェクト管理と比較して研究します。

IE06 情報活用 

わかりやすいゼロトラストセキュリティ

何も信用しないことを前提に対策を行うゼロトラストセキュリティという考え方が提唱されました。DXの推進やリモートワークの普及により注目されています。ゼロトラストセキュリティを実装した時の課題や解決策について研究します。

IE07 情報活用 

ビジネスを発展させるデータ活用

データは21世紀のオイルと言われていています。しかし、活用できているかと聞かれるといかがでしょうか？どうすればデータ活用できていると言えるのでしょうか？ビジネスを発展させるデータ活用について研究します。

IE08 情報活用 

データカタログの必要性

企業内のデータの管理のために構築されるデータカタログが注目されています。どのようなケースでデータカタログが必要となるか、どのようにデータカタログを構築、運用すべきかという方法を研究します。

IE09 情報活用 

メタバースは日本に浸透するのか

ゲーム業界や音楽配信などではすでに盛り上がりを見ているメタバース。実際のビジネスにおいて、日本にメタバースは浸透するのか、浸透するとすればどのようなシーンで活躍するのかを研究します。

IE10 情報活用 

Z世代向けのビジネス変革

Z世代の社会進出が始まりました。Z世代の人たちはこれまでの購買行動と異なるため、今までのマーケティングの仕方や販売方法では無理・無駄が出てしまいます。この課題を解決するため、Z世代向けのビジネス変革について研究します。

OE01 システム運用 

運用管理事例

ITの課題に対する最新技術による解決策や参加企業を含めた様々な業態の導入事例、実績を相互に提供し合う、会社を離れた情報交換の場を提供していきます。また、メンバーの豊富な経験を活かし、ユーザ会に参加する研究部会メンバーへの支援を行います。

OE02 システム運用 

クラウド時代のセキュリティリスク対策

2021年は「Apache Log4j」に脆弱性が見つかり、セキュリティリスク対策が注目されました。運用現場としてシステムのバッチ適用や様々なセキュリティ対策に取り組んできましたが、運用部門が考慮すべきクラウド時代のセキュリティリスク対策を研究します。

OE03 システム運用 

IT運用業務の完全自動化実現

システム障害発生後の自動復旧等は、今後の人材不足やオペレーションの失敗リスクを考えた場合に運用部門としては取り組みたいテーマです。IT運用業務の「完全」自動化を達成するために、運用部門が実現したい自動化の取り組みについて研究します。

OE04 システム運用 

運用部門の役割再考

システム運用がアウトソーシング中心となりましたが、様々なシステム環境の運用ニーズが増え、今までのオペレーション中心のシステム運用から役割責任も拡大しています。運用の仕事を様々な企業の現状から考え、運用の目的や責任範囲、これからの変化するシステム環境を予測し次世代運用の在り方について研究します。

OE05 システム運用 

クラウド時代の共通機能実現

システムを所管する部門や担当者が独自にクラウドサービスを選定し採用する中、社内システムとの連携方法もそれぞれの方法で実現され、運用負荷やコストが拡大しています。企業のDX推進のために必要な共通機能（共通で利用する機能は標準化して活用する）について研究します。

OE06 システム運用 

製品・サービスのライフサイクル対策

各企業では様々な製品・サービスの導入が進んでいることから、製品・サービスのライフサイクルに伴うEOS・EOL等の対策を急務で進めています。攻めのITを目的とした製品・サービスのライフサイクル対策について研究します。

研究活動の流れ【主な活動とスケジュール】 予定は変更される可能性があります。

5月

春の全体会

研究活動のキックオフとして全国で春の全体会を開催します。全体に対してオリエンテーションを行ったあとは、グループごとに分かれて初回の会合を行います。これから1年間、一緒に研究活動を進めていくメンバー、コーディネータと初めての顔合わせです。自己紹介や今後の進め方などを決めていき、研究活動がスタートします。

7月

合宿/集中討議

日帰りや1泊2日での合同合宿を開催します。何にも邪魔されない環境で研究テーマの深掘りや議論に集中でき、メンバーとの親睦も深まりますのでぜひご参加ください。

9~10月

グループリーダ会議

各グループのリーダが集まり、研究活動の進捗を報告します。他グループのリーダや代表・副代表と意見交換することにより、今後のグループ活動をよりよくしていきましょう。

注意事項

研究会の参加者は以下の参加条件を満たす必要があります。
・カメラ、スピーカー、マイクが搭載されたPCもしくはタブレット端末を持っていること
・インターネット環境が整っていること

対象	部門長	マネージャー	一般・若手・中堅
情報活用	情報活用研究部会	システム運用	システム運用研究部会
合同	合同研究部会	情報活用・システム運用	情報活用・システム運用研究部会

中部地区

OE07 システム運用

運用業務への人工知能、IoT活用

運用部門は運用データの活用に関し、標準化モデルを検討し推進する役割があります。データ活用に活路が見いだせれば、永遠のテーマとなっている運用自動化も進む可能性があります。運用部門で実現可能な人工知能・IoT活用について研究します。

OE08 システム運用

DX推進のためのクラウド管理実践

今後クラウド利用が進むことで運用部門の役割が変化し、クラウドサービスを活用する上での新たな運用を準備する必要があります。運用部門の次の役割となるクラウド管理の実践について研究します。

OE09 システム運用

運用の専門家としての活躍、ジョブ型雇用の実現

IT人材不足の問題に対し、会社に帰属して働く「メンバーシップ型雇用」から専門家として働く「ジョブ型雇用」に切り替え、業務に対する専門職の考え方を適用するために運用部門の次の雇用の在り方を「ジョブ型雇用」の適用を通じて研究します。

OE010 システム運用

ハイパフォーマーな運用組織の実現

様々な価値観を持つ社員同士が運用組織を担う時代になり、組織内での価値観を合わせることに難しい状況です。ハイパフォーマーな運用組織の実現を目的に様々な価値観を持つ世代との協働を研究します。

INO1 情報活用

ローコード、ノーコードの開発

開発の高速化や高スキルが不要な新しい手法として、ローコード、ノーコード開発に注目が集まっています。本研究グループでは、その開発手法や導入事例、期待される効果や開発業務の改善、今後の情報システム部門のあり方を研究します。

ONO1 システム運用

これからのDevOpsを考える

DevOpsの派生形として、DataOps、MLOps、AIOpsなど様々なアプローチ手法が登場しています。本研究グループでは、DevOpsの最新動向を調査し、ビジネスにおける更なる活用シーンについて研究します。

西日本地区

GW01 合同

業務変革とIT活用

IT全般について、あり方や活用方法を研究します。攻めのIT、DX、事業継続計画、コンプライアンス対応、働き方改革、人材活用、IT利用とコストとの関係といった、様々なテーマについて、情報交換し解決策を探っていきます。

GW04 合同

SDGsを実現するITとは

「SDGs アクションプラン2021」の中で「Society 5.0」の実現やDXの推進が提唱されています。当研究グループでは身近で取り組みやすい例を考え、SDGsを実現するために必要なITを研究します。

GW07 合同

ゼロトラストセキュリティによる新しい働き方

近年では情報漏洩やサイバー攻撃によるリスクが増大しており、ネットワークの接続を常時検証する「ゼロトラスト」の考え方が必要となってきました。当研究グループでは「ゼロトラスト」の考え方や働き方について研究します。

GW02 合同

IoTで実現する感染症対策

当研究グループでは、企業の業務が滞りなく遂行でき、個人がより快適に生活できるための感染症対策に向けて、IoT (Internet of Bodies/Behavior) を活用する方法について研究します。

GW05 合同

AIで変える次世代リモート会議

Webによるリモート会議が主流となりましたが、業務の効率化に繋がっていないケースもあります。当研究グループでは、会議自体の生産性を高めるために、AIや自動化のツールを使用した次世代のリモート会議について研究します。

GW03 合同

AIを活用した業務改革

近年、企業内においてはAIが活用できておらず、さまざまな問題や課題が発生しているのではないのでしょうか。当研究グループでは、職場環境の改善や生産性の向上につなげるためのAIの活用について研究します。

GW06 合同

企業の内製化を進めるためのIT部門の役割

内製化を進めることができれば、知識や経験が蓄積されることでIT人材不足の問題も解決できる可能性が高まります。当研究グループでは、企業における内製化への最短ルートを考えながらIT部門が果たす役割について研究します。

九州地区

IKOKO1 情報活用・システム運用

IT部門強化に向けたコミュニケーション手法

当研究グループでは、今後のリモートワークをより充実したものにしていくために必要なコミュニケーションについて、技術面・ルール・対人関係など、さまざまな視点によるアプローチ手法を検討し、研究します。

12月

冬の全体会

春の全体会から7ヶ月、それぞれの地区の全グループが一堂に会します。各グループから研究活動の進捗報告、3月のシンポジウムに向けた発表講習などを実施し、研究活動のまとめに臨みましょう。また、全体会後の懇親会では、シンポジウムでの発表枠の抽選も行います。

1~2月

発表練習会

研究活動も大詰めとなり、シンポジウムに向けた発表練習会を行います。他グループや幹事・代表・副代表を前に発表練習を行い、フィードバックを得てさらに磨きをかけていきましょう。

3月

シンポジウム

1年の活動の集大成！九州で開催するシンポジウムで研究発表を行います。有終の美を飾るのは一体どのグループでしょうか！

■ 研究部会活動

参加ユーザの自主的な運営で、地区ごとにテーマを設定しテーマごとの研究グループが1年間研究活動を行います。



■ ユーザシンポジウム

1年間のユーザ会活動の締めくくりとして、研究部会活動発表、ユーザ各社の事例発表の場として、「ユーザシンポジウム」を開催しています。



■ 情報交換活動

【ITゼミナール】

各地区の方を中心に、会員企業の階層ごとに最新技術情報のテーマを設定し、幅広い分野での意見交換・討議の場として開催しています。



【マネジメント研究会】

全国の部門長クラスの方を対象に、マネジメントの立場から見た情報システムにまつわる最新的话题を幅広く取り上げ、情報交換を中心に開催しています。



■ <UNIRITA ユーザ会>2022年度年間スケジュール(2022年4月~2023年3月)

		2022年 4月	2022年 5月	2022年 6月	2022年 7月	2022年 8月	2022年 9月	2022年 10月	2022年 11月	2022年 12月	2023年 1月	2023年 2月	2023年 3月
幹事会・研究部会運営会議等		運営会議 4/22(金)		幹事会 6/10(金)					運営会議 11/9(水)			幹事会 2/3(金)	
東日本	情報活用研究部会		春の全体会		合宿/ 集中討議					冬の全体会			
	システム運用研究部会			合宿/ 集中討議									
	情活グループリーダ会議					9/14(水)							
	運用グループリーダ会議						10/4(火)						
中部	情報活用研究部会		春の全体会		合宿/ 集中討議					冬の全体会			
	システム運用研究部会			合宿/ 集中討議									
	合同研究部会												
	合同グループリーダ会議						10/6(木)						
西日本	情報活用研究部会		春の全体会		合宿/ 集中討議					冬の全体会			
	システム運用研究部会			合宿/ 集中討議									
	合同研究部会												
	合同グループリーダ会議						9/21(水)						
九州	情報活用・システム運用合同研究部会		春の全体会		合宿/ 集中討議					冬の全体会			
	グループリーダ会議						9/21(水)						
意見交換会								10/14(金)					

ユーザ
シンポ
ジウム

役員・代表の紹介

2022年度のUNIRITAユーザ会役員・代表の方々をご紹介します。

役員

会長
後藤 聖央
ソニー生命保険株式会社
執行役員 IT デジタル戦略本部
本部長 兼 同本部
グループウェア開発部 統括部長



幹事
河村 優司
さくら情報システム株式会社
常務執行役員



幹事
山口 公晃
京葉ガス情報システム株式会社
取締役企画開発部長



幹事（監査担当）
井上 勝
第一生命情報システム株式会社
経営企画部 担当部長
兼 経営企画 グループ長



幹事
田中 久子
SOMPO システムズ株式会社
常務執行役員 ITサービス
本部長



幹事
深沢 修
旭化成アミダス株式会社
IT 推進部 情報システムグループ
グループ長



幹事
中俣 幸二
株式会社リコー
デジタル戦略部 コーポレート IT
統括室 CCoE 推進室
基盤グループ グループリーダー



幹事
高橋 博実
三菱UFJインフォメーションテクノロジー
株式会社
デジタルイノベーション本部
シニアテクニカルリード



幹事
澤井 隆慶
出光興産株式会社
情報システム部 次長



幹事
廣瀬 真一
ANA システムズ株式会社
上席執行役員



幹事
水野 泰宏
日東工業株式会社
DX統括部 情報システム部 部長



会計幹事
野村 剛一
株式会社ユニリタ
上席執行役員
プロダクトサービス事業 本部長
兼 メインフレーム部長



東日本地区代表

情報活用研究部会代表
田中 豊久
株式会社匠 BusinessPlace
代表取締役社長



中部地区代表

情報活用研究部会代表
合同研究部会代表（兼任）
山口 聡
株式会社タリヤ
情報システム部 次長



西日本地区代表

合同研究部会代表
坂元 弘樹
株式会社 CAC オルビス
事業推進本部 DX 担当部長



システム運用研究部会代表
寺門 美紀

MS&AD システムズ株式会社
基盤運用第一部 サーバネットワーク
グループ 上級マネージャー



システム運用研究部会代表
杉本 浩彰
株式会社トヨタシステムズ
ファイナンスIT本部 ファイナンス企画部
推進統括G 主幹



九州地区代表

情報活用・システム運用
研究部会代表
永浦 秀敏
株式会社インフォセンス
ビジネスソリューション事業部
インフラソリューション部 部長



ITゼミナール代表

ITゼミナール代表
中俣 幸二（兼任）
株式会社リコー
デジタル戦略部 コーポレート IT
統括室 CCoE 推進室
基盤グループ グループリーダー



マネジメント研究会会長

マネジメント研究会会長
山口 公晃（兼任）
京葉ガス情報システム株式会社
取締役企画開発部長



2022年度 研究メンバ募集について

UNIRITAユーザ会は、様々な業種、様々なIT環境のメンバが集まる人脈形成の場であり、また、他のユーザ会と異なる大きな特徴として、1年を通じた研究活動による技術力向上をテーマにした活動を中心としていることがあげられ、人材育成の場としても活用していただけます。

UNIRITAユーザ会では2022年度の 研究部会メンバを募集しております。

研究部会のキックオフとなる春の全体会は5月に開催いたします。研究メンバ同士の顔合わせの場となるだけでなく、1年間の研究内容の方向性が決定される場でもありますので、ぜひ、春の全体会からのご参加をお願いいたします。



写真はオンライン及び対面での活動イメージです。

【 ご参加者・ご参加者上司の声 】

2021年度研究部会へ部下の方を 参加させたことに関するご感想

- 直接集合してワークショップが開催できないのが残念ですが、他社さんと交流するいい機会です。積極的に参加させたいと考えています。
- 協力して一つのを仕上げる楽しさを感じてくれたようで有意義だったと思う。
- 業務が有る中で真剣に取り組んでくれた点と部会を通しての新たな人脈形成に有用であった

研究部会活動へのご感想

- 大きなテーマから一人一人の感じ取ったことを汲んで研究発表にすることは、難しいながらも楽しかったです。うまくやれたことや、もう少し頑張ればうまくいったかもしれないなどの後悔も含めてこういった活動が続いていったらいいだろうなと思いました。
- 個人的には研究会メンバーとして、受賞を取得する・しないに関わらず、この研究会に参加して出会えた他社のメンバーとの関係(絆)は、引き続き継続していきたいと思いました。一度も直接(リアル)対面したことない間柄でも、信頼しあえる関係性構築はオンライン上でも可能だという事を発見・学べました。

お申し込み・詳細はユーザ会ホームページをご覧ください。
2022年度の全国の研究テーマの詳細を公開しています。

▶「ユニリタユーザ会」で検索！
<https://www.uniritauser.jp/>



編集後記

事務局より

2021年度のUNIRITAユーザ会は、未だ落ち着きを見せない新型コロナウイルス感染症に翻弄されました。研究会活動をはじめ、全体会やマネジメント研究会、ITゼミナール等のイベントはすべてリモート開催となりました。研究会活動では、1年間の活動中一度も会うことなく3月のユーザシンポジウムを迎えたという研究グループが多かったようです。制限なく懇親会が開催できるようになりましたら、是非直接会って親睦を深める機会を持っていただけたらと思います。マネジメント研究会やITゼミナールは、リモート開催だから参加できたという会員様も多く、イベントの開催方法を考えるいい機会になりました。

UNIRITAユーザシンポジウムの開催方法につきましても決定までに時間がかかりました。最終的に2度目のオンライン開催となりました。いくつかのトラブルもありましたが、皆様のご協力により全てのプログラムを実施することができました。改めて御礼申し上げます。

さて、2022年度の研究メンバの募集が始まりました。研究活動は5月の春の全体会からキックオフを行い、始動します。様々な研究テーマをご用意しておりますので、2022年度もご参加を検討いただければ幸いです。2022年度のユーザシンポジウムでは、福岡で皆様にお会いできることを願っております。